

【国際関係学部】令和8年度 学部等教学マネジメント計画書

3つのポリシーに基づいた学修者本位の教育の実現に向けて、学部等教学マネジメントに関する以下の観点について各学部で計画・実行・検証し、次年度以降の改善に繋げることとする。

1. 学部における教学マネジメントの組織体制

- 運営委員会とカリキュラム委員会を構成員とするカリキュラム改革委員会を置き、カリキュラムの検証・改革、将来構想の事案についての推進体制を整えている。具体的には、学部内委員会（教学関係）からの情報・提案を基に、カリキュラム改革委員会が、教育等諸活動における課題に対する改善案を策定し、教授会で審議のうえ施策等を決定する。また、教学IR情報、学部自己点検・評価結果等を基に、学部教育の適切性を検証する。

2. 体系的かつ組織的な教育課程の編成・実施を支える各ツールの課題およびその改善に向けた今年度の取り組み

課題

- ① カリキュラムマップ
カリキュラムマップ上では、資質・能力の配当年次は確認できるものの、実際の授業内容や到達目標との対応関係について継続的な検証が必要である。
- ② シラバス
シラバスにおいて年次間の順次性や科目間の関連性などを学生に見えやすくする工夫が求められる。
- ③ その他（カリキュラムツリー、ナンバリング等）
作成したカリキュラムのイメージ図は、学生の実際の履修行動と一致しない可能性がある。

今年度の取り組み

- 実際の授業内容とカリキュラムマップとの対応関係について、シラバスに記載された評価項目や到達目標を確認し、カリキュラムマップ上の位置付けと授業内容との整合性を検証する。
- 複数年にわたる科目については、到達目標の順次性および発展性がより明確に伝わるよう、シラバス記載方法の改善策を検討する。
- その他：実際の学生の履修パターンを統計的に把握できるようにし、より現実に沿った履修モデルの提示に向けて作業を始める。

3. 学修成果・教育成果の把握・可視化に向けた今年度の取り組み

課題

- 卒業時調査では、学部の専門知識を修得したと回答する学生の割合が高い一方で、卒業成果物の完成度と学生自身の修得実感が不一致の場合もある。
- GPAと修得実感との関係を見ると、GPA中位層の学生よりもGPA低位層の学生の方が「十分身についた」と回答している。この要因について検証が必要である。

今年度の取り組み

- 共通のルーブリックを導入するための作業を進める。学生の自己評価基準の標準化を図る方向での調整を行う。
- 学生による自己評価の設問のあり方を検証し、ルーブリックの開発に向けて始動する。

4. 授業科目の到達目標の達成状況および学生の資質・能力の修得状況から明らかになっている課題およびその改善に向けた今年度の取り組み

課題

- 英語で実施される科目において、英語力そのものだけでなく、思考力や表現力といった他の資質・能力がどう関連して評価されているかが不明確である。
- 研究演習における卒業成果物については、学生の修得実感が高い一方で、教員間の評価にばらつきが見られる。

今年度の取り組み

- 複数クラスの成果物を分析し、英語スキルと汎用的能力を分けて評価できる共通ルーブリックを作成することで評価の適正化を図ることができるようにする。
- 研究演習に関しては、評価における必須項目や水準について共通理解を形成するため、優れた成果物のサンプルを共有し、評価者用の共通ルーブリックの策定に向けて作業をする。

アセスメントプランの取り組み

アセスメント科目名	検証方法（在学時）
・海外フィールド・リサーチ ・発展演習Ⅱ ・Issues in International RelationsⅡ ・研究演習Ⅳ	☐ GPA ☐ 科目の成績評価 ☐ 実感調査 ☐
	検証方法（卒業時）
	☐ 卒業研究・卒業論文 ☐ GPA ☐ 学部独自調査（卒業生アンケート） ☐ 実感調査 ☐

取り組み内容（「8つの資質・能力」の達成方法など）

- 学生がカリキュラムを通じて DP に定める学修目標に到達し、資質・能力を身につけているかを、各種指標に基づき確認する。学部教学マネジメント体制のもと、学生の修得実感が低い科目については、自己評価や客観的評価の関係性を分析しながら対応方法について検討を進める。

その他

- 生成 AI の活用が、下位層の学生にとっては自律的な学修を妨げる要因となりうる一方、上位層にとっては学修を深める契機ともなりうることを示唆されている。こうした教育的影響の二面性を踏まえ、学部独自のガイドライン策定の可能性について検討を進める。なお、AI 活用に関する教育方針の基本的な枠組みについては、全学的・文部科学省レベルでの統一的対応が望ましいと考える。

※この内容は、本学における教学マネジメントの一環として、本学 HP へ掲載します。